国保一本松病院へ5月1日に赴任された芝田貴裕(たかひろ)医師をご紹介します

東京で活躍されていた芝田貴裕(たかひろ)医師が、この度故郷である愛南町での勤務を始めました。

旧城辺町出身の芝田医師は南宇和高校を卒業後、東京慈恵会医科大学医学部に進学。卒業後は、東京慈恵会医科大学附属病院など東京・千葉・埼玉で勤務され、40年にわたり循環器の専門医として多くの患者さんと向き合ってきました。今年の3月31日までは、東京慈恵会医科大学附属第三病院で教授を務め、循環器内科部長および慈恵第三看護専門学校の校長としても勤務され若手医師の育成にも精力的に取り組んでこられました。

【芝田医師 外来診療予定表】

	月	火	水	木	金	土	日
午前	−	−	−	−	診療	休診	休診
午後	−	診療	診療	診療	診療		

「これまでは専門の循環器に特化した医療に携わってきましたが、これからは内科医として地域医療に貢献し、育ててもらった愛南町に恩返しをしていきたい」と話します。

芝田医師のお母さまが一本松病院に入院していた過去があるため一本松病院への強い思い入れもあり、「母の入院当時を振り返ると、患者にも家族にも寄り添った対応で温かい気持ちになったのを覚えています。私が感じたように“この病院で良かった”と思ってもらえる医療環境の提供に努めたい」と意気込みを語ります。

慈恵医大創立者が遺した言葉“病気を診ずして病人を診よ”がモットーの芝田医師。「自分にできる最大限を追求して患者さんと向き合いたい」と笑顔を見せました。

地域おこし協力隊 活動日記

「新たな地域おこし協力隊が着任」

5月1日㈭、新たな地域おこし協力隊として西村健(たけし)さん（神奈川県出身）が着任しました。

愛南町の皆さま、初めまして、西村健(たけし)と申します。この度、水産課海業推進室「海を活かした地域振興」の地域おこし協力隊として5月に着任させていただきました。

約6年程前より移住を考え、途中、コロナにより中断しておりましたが、日本全国を巡り、その中で、特に四国には6回ほど来させていただきました。移住を考えるなかで、地域の方々に貢献ができる「地域おこし協力隊」の制度を知り、なにより愛南町が進める「海業」に心を惹かれ、子どもたちが故郷の海の豊かさ、素晴らしさを再確

認できる「ぎょしょく体験」に感服し、応募をさせていただきました。微力ながらこの体験をさらに広められるように努めてまいります。

私自身、まだまだ未熟者ですので、地域の皆さまにご指導ご鞭撻をいただき、地域に根差した活動を続け、胸を張って「もうひとつの故郷」と言えるよう、働いてまいります。

皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

愛媛CATV動画

愛南町観光親善大使 早見和真（かずまさ）さんの著書『アルプス席の母』2025年本屋大賞で第2位受賞！

観光親善大使を務める早見和真（かずまさ）さんの著書『アルプス席の母』が2025年本屋大賞で第2位を受賞しました！

この著書は母の視点で描かれた新しい高校野球小説となっており、今年1月に行われた講演会でも本屋大賞について触れていた早見さんは、「2位はめちゃめちゃ悔しいです。いつか1位を獲ったら愛南町でチヤホヤしてください！」と、書店員さん手作りの野球盤ポップを手に笑顔を見せました。

いつも愛南町を応援してくださっている早見さんの『アルプス席の母』、ぜひ皆さんも読んでみてください！

『eatふるさとCM大賞えひめ'25』愛南町の2作品をご覧ください 愛南マダイ応援隊「愛南って知ってる？」が審査員特別賞を受賞！

CM大賞応募作品動画

▲松山大学キャンパス内で表彰状を受け取った愛南マダイ応援隊の皆さん

『eatふるさとCM大賞えひめ'26』の作品募集については改めてお知らせします！

愛媛朝日テレビ主催の『eatふるさとCM大賞えひめ'25』に、「南宇和高校3年1組」と「愛南マダイ応援隊」の2団体から応募があり、両団体とも上位25作品に選ばれ、愛南マダイ応援隊の作品は審査員特別賞に輝きました。

南宇和高校3年1組の作品「愛南ゴールドと私たち」は、実際に栽培している彼らだからこそ伝えられる魅力を最大限に表現しており、愛南ゴールドの妖精「かわちばんばん」も登場する観ていて楽しい気持ちになる構成となっています。

また、今大会で3回目の応募となった愛南マダイ応援隊は過去最高の仕上がりとなった「愛南って知ってる？」で審査員特別賞を受賞。町の豊かな自然を若者目線で盛り込んだ作品は審査員から高い評価を受けました。

両団体の作品は上記の二次元コードからご覧ください。

3/9 町内の救急医療関係者が一堂に会し有事を想定 町消防本部で多数傷病者対応訓練を実施

愛媛CATV動画

▲大型スーパー敷地内で車が暴走し多数の怪我人が発生したという想定で行われた訓練の様子

消防署で救急医療関係者による多数傷病者対応訓練が実施されました。

この訓練は、局地的かつ短時間に多くの傷病者が発生し通常の体制では対応が困難な事態を想定したもので、南宇和郡医師会や県立南宇和病院、町消防本部など約80人が参加し、コロナ禍以降初となる大人数での訓練となりました。

救急隊が救出した怪我人を応急救護所に搬送し、医師や看護師が搬送順位を決めるトリアージを行い、その場で医療処置や病院への搬送手続きを迅速に行いました。

訓練後の反省会では、各機関からの反省点や気付きが発表され、地域の安全を守るための積極的な意見交換の機会となりました。

4/8 大きな希望と若干の不安を胸に 県内屈指の伝統校 南宇和高校で入学式

愛媛CATV動画

▲新入生一同（写真提供：南宇和高校）

4月8日㈫、清水幸一（こういち）校長が入学許可宣言を行い86人が南宇和高校に入学しました。

清水校長の式辞では、「基礎基本を大切にし、さまざまな活動に熱心に取り組み、地元から深く愛されながら、地域と共に伸びる学校を目指して、日々新たな歩みを刻んでいます。皆さんも、自信と誇りを持って、ここで学んでください」と、新入生に向けて言葉を送りました。

各分野において目まぐるしい活躍を見せる南宇和高校に加わった86人の新入生。保護者や教職員に見守られ、3年間の高校生活をスタートしました。

4/18 地域活性化と災害時における迅速な応急仮設住宅供給のため （一社）日本ムービングハウス協会との包括連携協定締結

愛媛CATV動画

▲左から　佐々木信博代表理事、中村維伯町長

町と一般社団法人日本ムービングハウス協会は、地域活性化と災害時における迅速な応急仮設住宅供給のため、包括連携協定を締結しました。

同協会は2016年に設立され、これまで6回の自然災害支援実績を持ち、石川県能登半島地震の際には500世帯以上に移動式木造住宅「ムービングハウス」を供給しました。

本協定により、大規模災害発生時には町からの要請に基づき迅速なムービングハウスの供給やハウスの再利用による復興支援への取り組みも期待でき、中村維伯（まさのり）町長は「災害復興や被災者支援が迅速かつ円滑に実施できることになり、大変心強く感じている」と感謝を述べました。

4/25 地域の消防・防災活動の要 愛南町消防団入退団式ならびに辞令交付式

愛媛CATV動画

▲坂本譲司団長に宣誓を述べる御荘方面隊新入団員の吉田学生さん

令和7年度愛南町消防団入退団式ならびに辞令交付式が4月25日㈮に御荘文化センターで行われ、各方面隊幹部や新入団員など約40人が出席しました。

3月末日をもって退団した5人には長年の消防団活動に対し感謝状と記念品が贈られました。また、令和7年度の新入団員12人のうち、この日出席した6人の新入団員には坂本譲司（じょうじ）団長から辞令書が手渡されました。新入団員を代表して御荘方面隊第3分団の吉田学生（がくしょう）さんは、「昨年4月の地震を経験して地域防災の重要性を強く感じました。これからは一人の消防団員として“自分たちの町は自分たちで守る”という意識をしっかりと持ち、地域のために活動していきたい」と力強く宣誓しました。